

NISSAN MOTOR COMPANY



# 電気自動車の持続可能な発展に向けた 日産自動車の取り組み

2018年11月25日

日産自動車  
常務執行役員  
赤石 永一

# 自動車を取り巻く社会問題

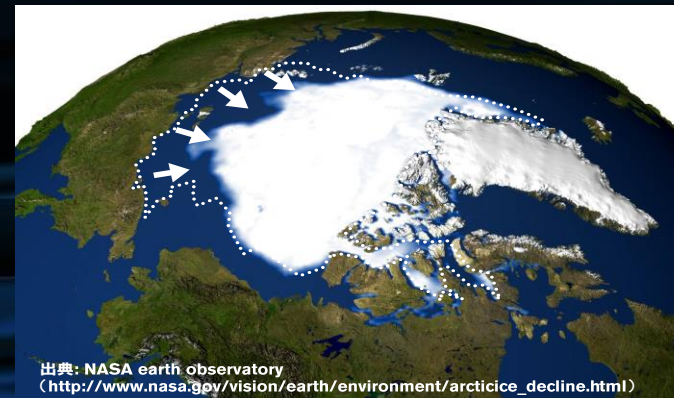
1

エネルギー問題



2

地球温暖化



3

交通渋滞



4

交通事故



# 技術的な方策

1 Renewable energy

電動化



2 Sustainability



3 Zero congestion

Vehicle Intelligence  
自動運転

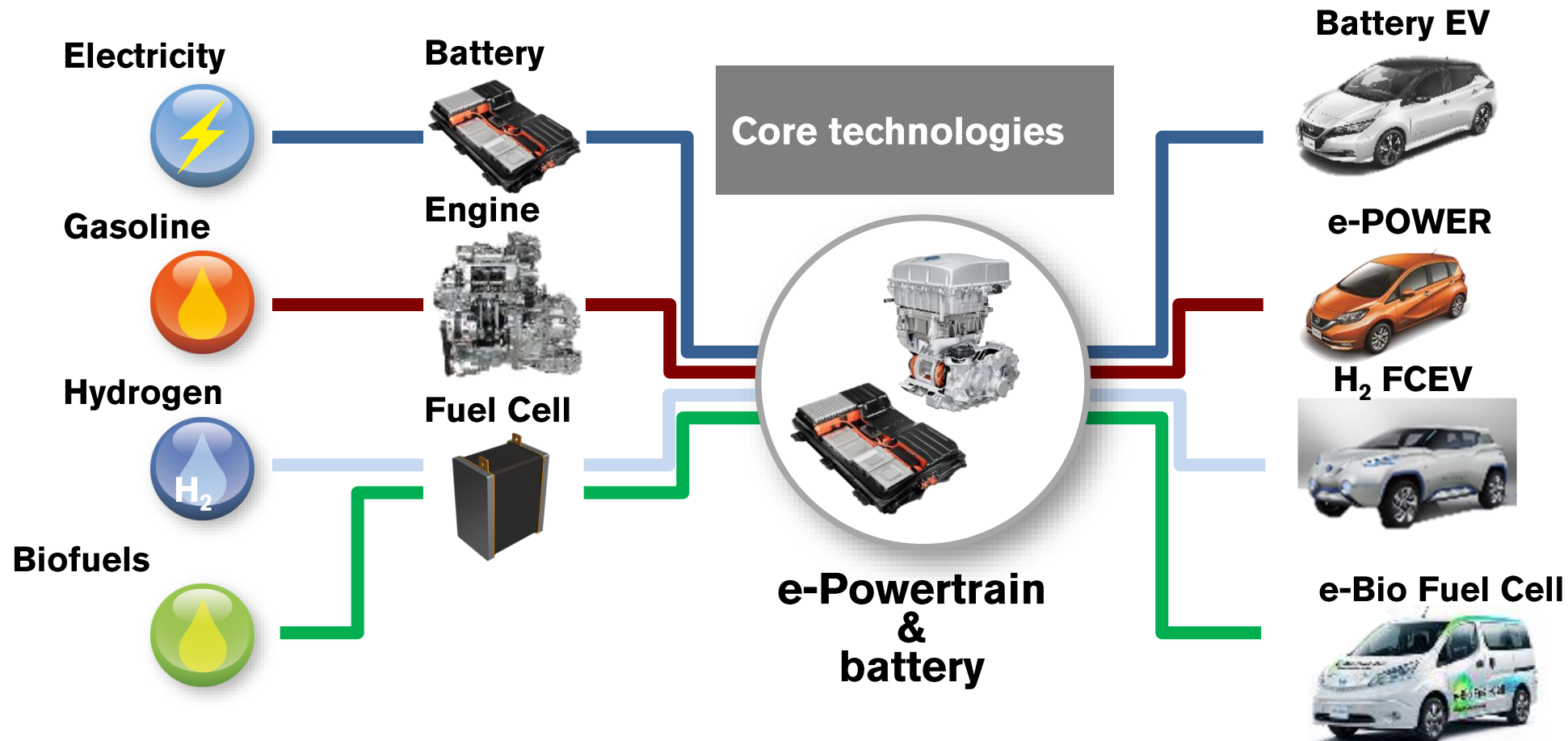


4 Zero accidents



# 電動駆動をコア技術とした車両展開

- 日産インテリジェントパワーのコアは電動駆動技術
- 持続可能なモビリティとエネルギー多様性を考慮しながら、モータ駆動によるドライビングプレジャーを実現

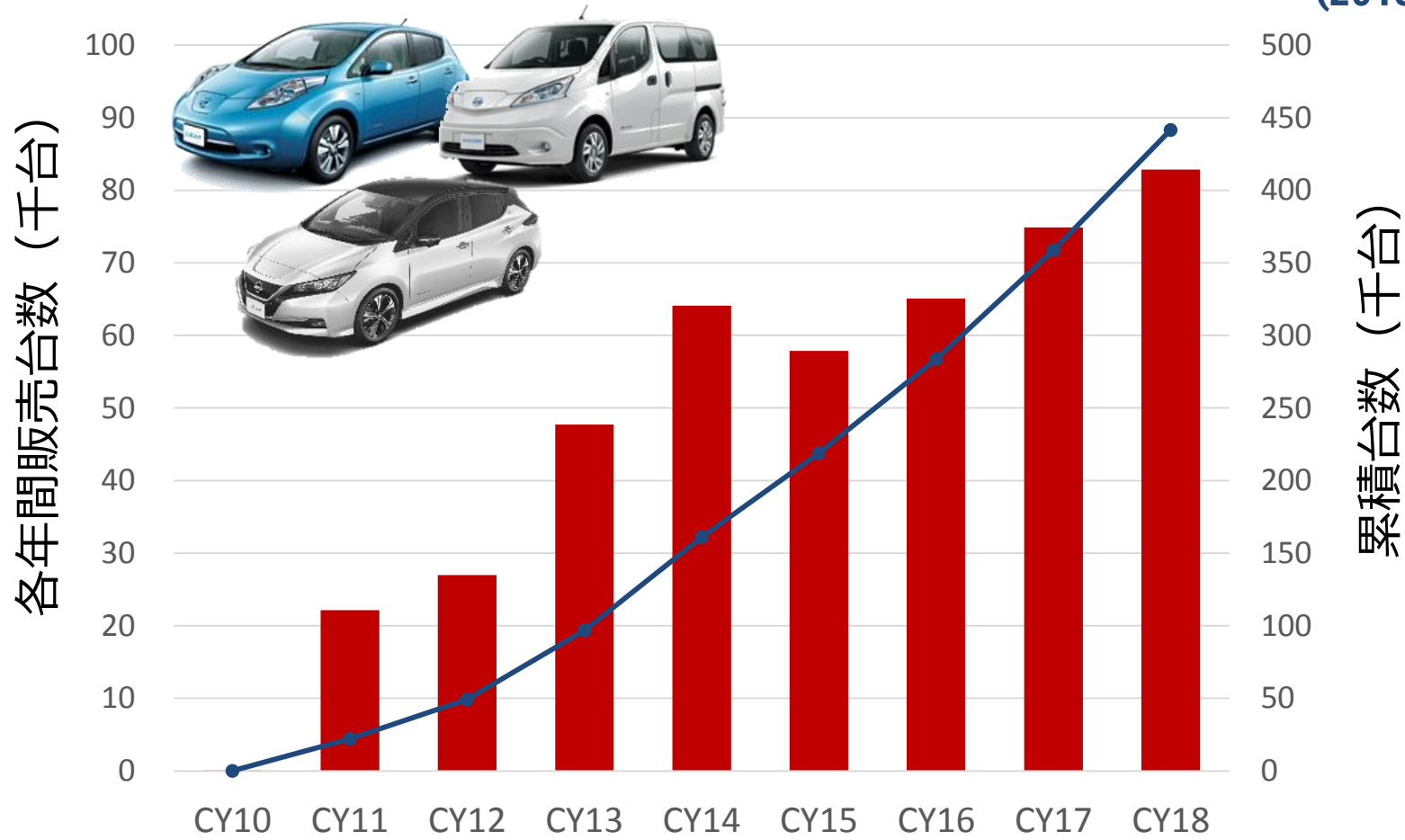


(C) Copyright NISSAN MOTOR CO., LTD. 2016 All rights reserved.

# 日産EVの販売台数

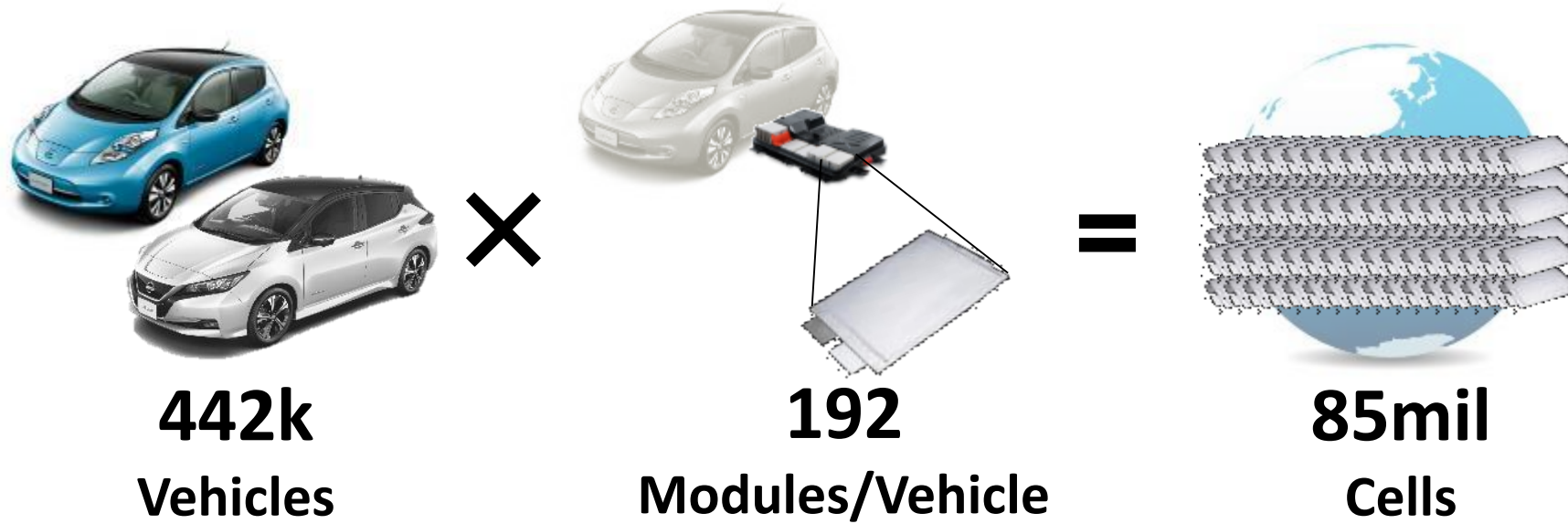
## 442k Units

(2018年9月末)



JPN:114k/ USA:126k/ EUR:134k/ Others:68k Units

# 安全性の実績



発火などのバッテリー重大不具合： **0** 件

# 新型シルフィ ゼロ・エミッション

Zero Emission



航続距離 338km (SMVICがNEDCモードで測定)

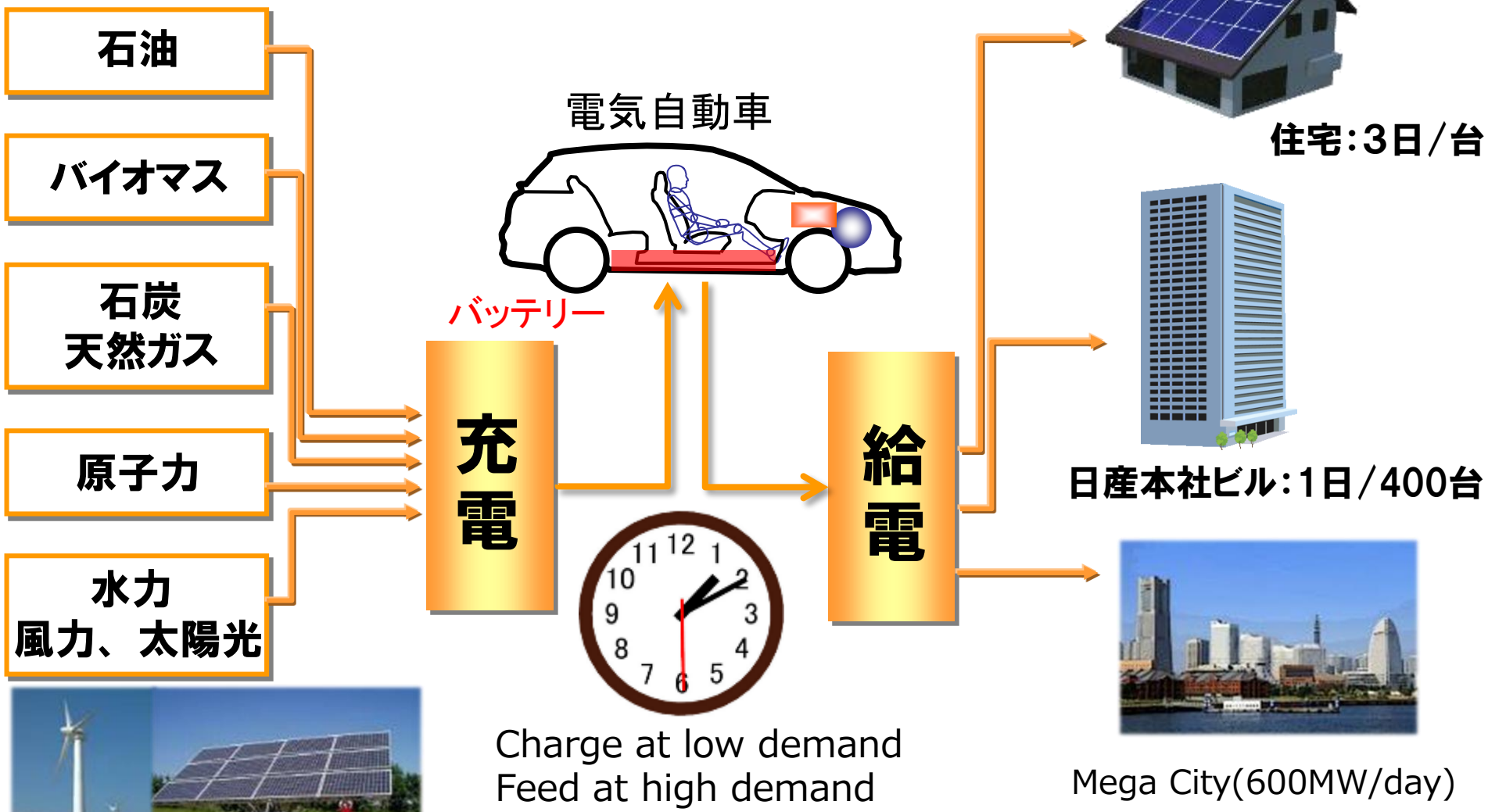
「ニッサン インテリジェント モビリティ」技術を多数搭載

車線逸脱警報、インテリジェント エマージェンシーブレーキ、後退時車両検知警報、後側方車両検知警報

SOP 2018年8月23日

# 多様なエネルギーの活用と効率的な需給

- 電気自動車を蓄電池として使うことで、エネルギーを効率的に使用可能。
- バーチャルパワープラントの一部を担うことも可能。

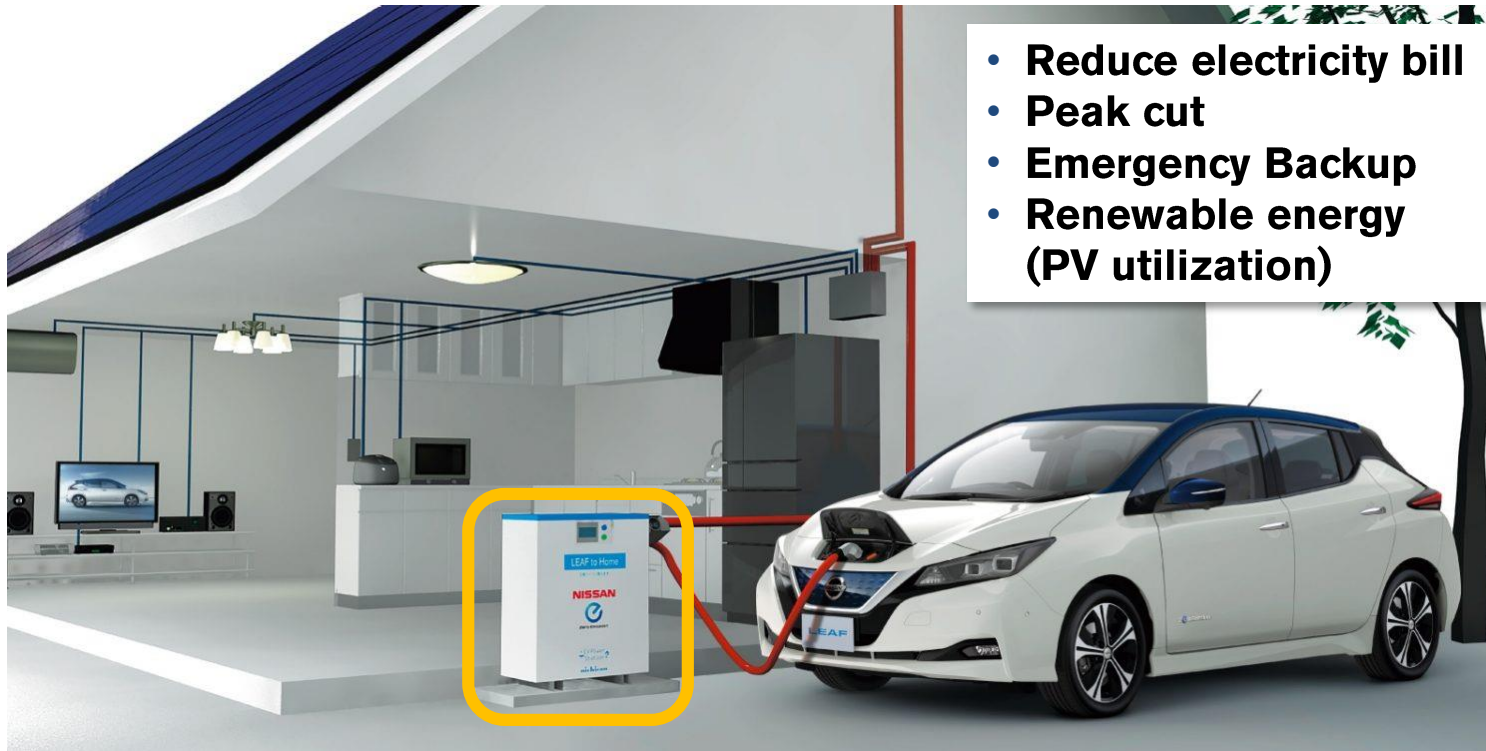




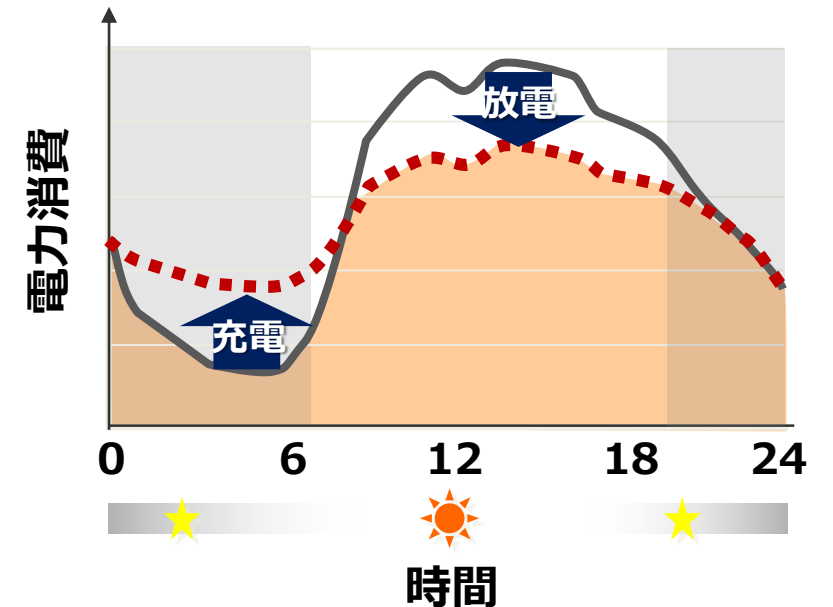
# 電力供給システム : LEAF to Home

- PCS\*により双方向の電力使用(充電・放電)が可能に
- PCS販売:7,000台以上

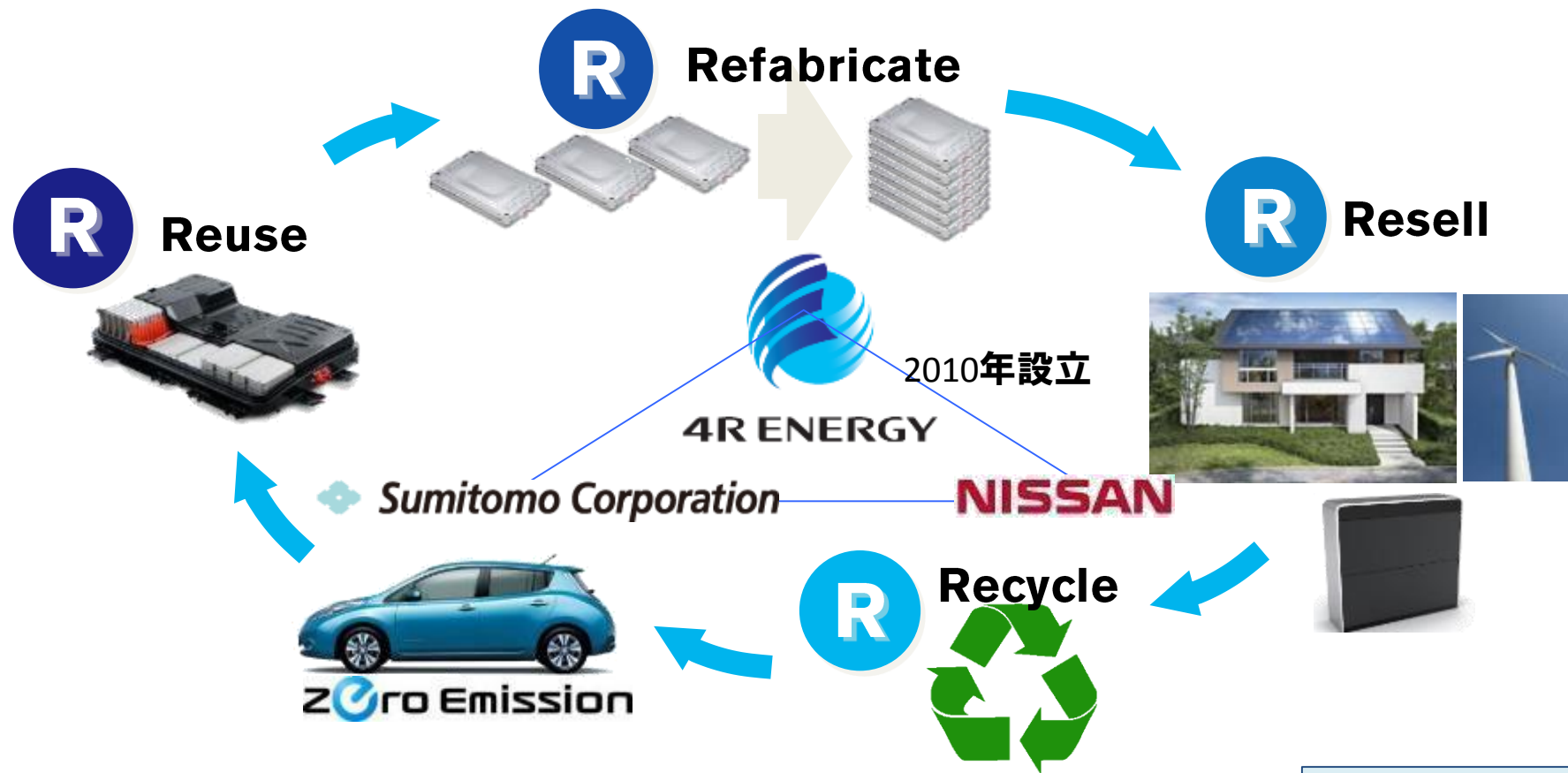
\*PCS : Power Control System



夜間に充電し、昼間に放電  
蓄電池として活用



# バッテリーリユースの取り組み：4R



## <開発の実証実験>



## <運用の実証実験.>

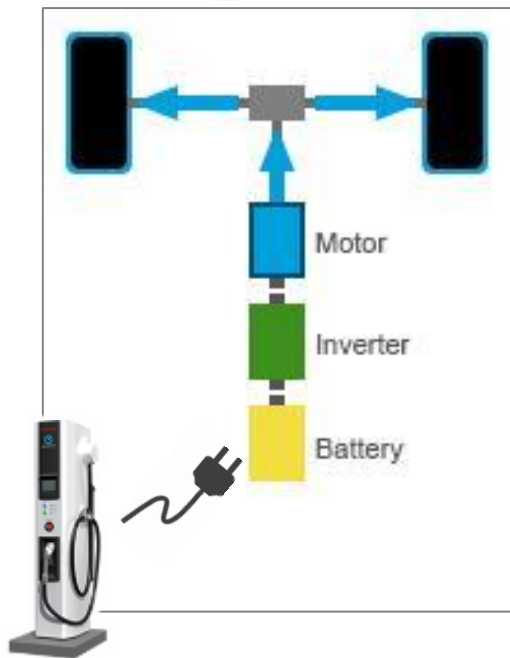


- リユースバッテリーの市場形成が必要
- 運搬、管理などの仕組み構築
  - リユースバッテリー用途拡大
  - 性能の保証制度 等

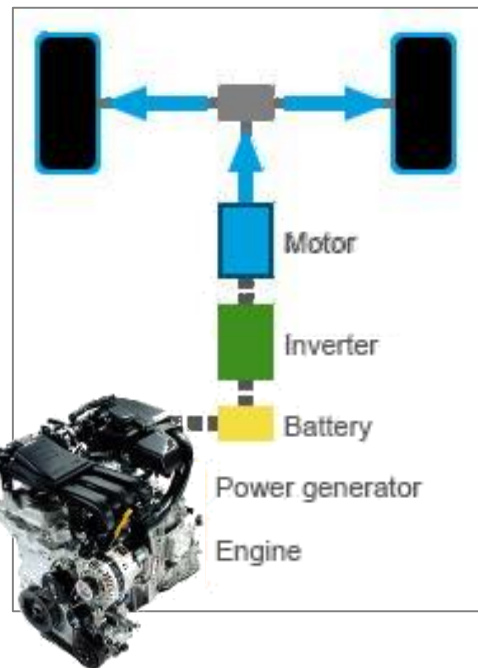
# e-POWER : 電気自動車の新しいかたち

- バッテリーEVの基本構成を流用し、発電専用エンジンを搭載。
- 100%電動モータ駆動であり、走りはバッテリーEVと同等。

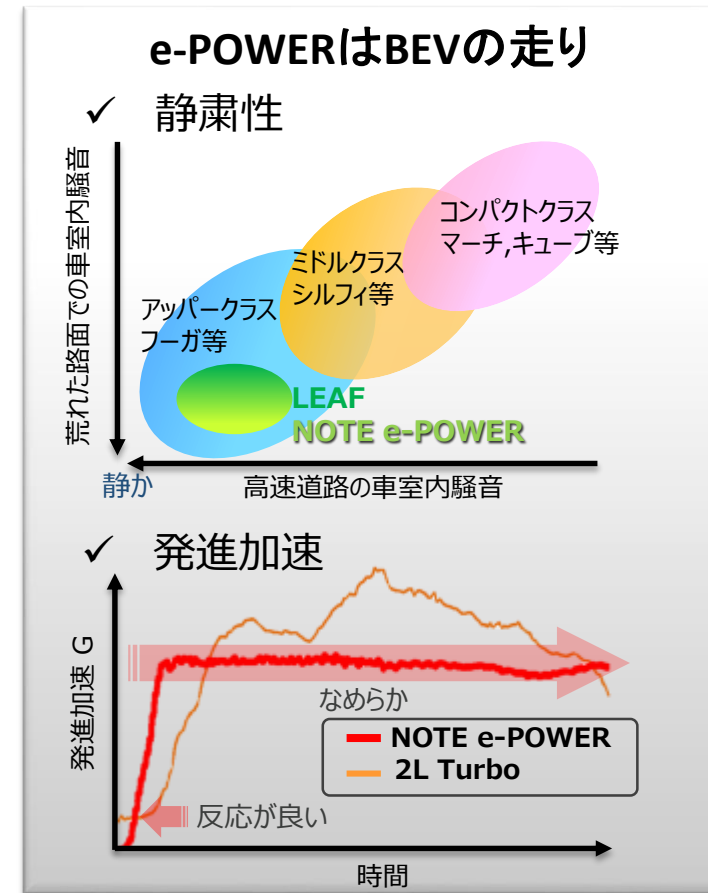
Electric Vehicle



e-POWER



Series Hybrid



# Summary

- 真の電気自動車普及には、安全・安心な電気自動車づくりが不可欠。日産自動車は市場のEVからの情報をバッテリー開発・生産に生かし、より良い物作りにつなげてきた。
- 電気自動車は停車中は蓄電池としても活用でき、社会全体のエネルギー利用効率化にも貢献する。
- 電気自動車の普及により、廃バッテリーも増加する。バッテリー二次利用を促進する仕組みの構築が必要となってくる。
- e-POWERは、高いエネルギー効率を実現できるシステムであり、充電インフラのない地域でもCO2削減に貢献する。電気自動車と共用可能な部品も多く、関連産業全体の発展にもつながる。

NISSAN  INTELLIGENT **M**OBILITY

ご清聴ありがとうございました

